

目次／企画展 よろい・かぶと・かたなの世界 表紙／いわて自然ノート「仏法僧物語」p.2-3／展覧会案内 企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」p.4-5／事業報告 ゴールデンウィークスペシャルイベント 事業報告 県博バックヤードツアー p.6／活動レポート トピック展「青い鳥」 古文書入門講座 p.7／インフォメーション p.8

企画展

よろい・かぶと・かたなの世界

2019年9月21日(土)～11月24日(日)



なまず おの かぶと
鯰尾兜

【岩手県指定有形文化財】(岩手県立博物館蔵)

会津を支配した戦国武将蒲生氏郷(1556-1596)の養妹が、南部利直(1576-1632)に嫁ぐ際に氏郷着用の兜を引出物として持参したと伝えられます。尾の部分^{がわ}を革、鉢の部分^{としなお}を鉄板で構成し、総黒漆塗仕上げとした均整のとれた造形は、戦国の変わり兜のなかでも秀逸です。その形から燕尾形兜とも呼ばれています。

■いわて自然ノート

ぶっほうそう
仏法僧物語

上席専門学芸員 藤井 忠志

■はじめに

筆者は長年、研究しているクマゲラの生態観察の際に、「ゲゲーゲゲー」と聞き慣れない声を発し、クマゲラと巣穴争奪戦を繰り広げている青緑色の鳥をよくみかけました。今から30年ほど前のことでしたが、これが有名なブッポウソウです。

ブッポウソウは岩手県ではあまりなじみがないというものの、これまで滝沢市・盛岡市・遠野市等で確認されてきましたが、昨年、宮古市にも2羽出現して鳥類関係者を驚かしました。人家のあるところや電線などによくとまっていますから、気をつけてみると、その存在に気づくことがあるかも知れません。

漢字で書くと『仏法僧』といういかめしい文字になりますが、このブッポウソウについて日本の鳥の世界ではあまりにも有名な実話がありますので、今回はそのことについて紹介します。

■ブッポウソウの鳴き声

今から千年以上も前、ブッポウソウは「仏・法・僧」と鳴くと信じられ、和名が「ブッポウソウ」となりました。飛鳥時代、仏教を尊んでこれを国民に広めた聖徳太子が「厚く三宝を敬え」と教え、平安時代に高野山を開いた弘法大師は「一鳥の声に三宝を聴く」と言ってブッポウソウをありがたい鳥として敬いました。三宝とはすなわち、仏宝・法宝・僧宝をいい、仏陀と、その教えと、これを布教する僧侶の三つを指します。昼は「ゲゲーゲゲー」と鳴いているのに、夜になると仏・法・僧と聞ける三音を夜通し鳴き続けます。その姿の綺麗さといい、その神秘的な鳴き声といい、申し分のない霊山の鳥ということで、昔から参詣のついでに、この鳥の姿を見たり、声を聴い

たりしようという庶民が少なくなかったようです。

ところが、昭和5・6年(1930・1931年)頃から、昼にきれいな姿の仏法僧鳥と、夜、「仏・法・僧」と鳴く鳥とは別物だという噂が一部の鳥類関係者に広まりました。当時、鳥の声の聞きなし研究をされていた京都大学の川村多実二教授が、「旅順にいた知人が仏・法・僧と鳴いている鳥を撃ち落としたら、ブッポウソウではなくコノハズクだった」という話を披露したことが発端となったようです。



クマゲラの巣穴に飛来するブッポウソウ

■ブッポウソウの正体

ちょうどその頃、山梨県の鳥類研究者・中村幸雄氏が昼は「ゲゲーゲゲー」と鳴く鳥が、夜は「仏・法・僧」と鳴く、つまり昼と夜とで二通りに鳴き分ける鳥などいるわけがないという理由から、夜間、「仏・法・僧」と鳴く鳥を撃ち落とす作業を試みました。夜間狩猟の許可をもらったものの、暗い中で的確を絞るのは至難の技で、1年目はついに撃ち落とすことができませんでした。

2年目の昭和10年(1935年)6月12日の夜、御坂山中の神座山でまだ薄明かりのある午後7時15分、100mを隔てたトチノキで鳴いている姿を発見し、急いでその樹に忍びよって様子を見てみると、幸いにも鳥は2mほど離れた枝へ鳴きながらとまりかえ、再び「仏・法・僧」と鳴いた瞬間に引き金を引きました。これが見事に命中し、落ちてきたのはブッポウソウならぬ、コノハズクだったのです。中村氏は、長年の思いがけない、みごとコノハズクを射とめたうれしさに、両手をあげて「天皇陛下万歳」と叫んだそうです。

ほぼ同時期、東京浅草の傘屋さんが飼っていたコノハズクが、NHKラジオから流れてきた仏法僧という声に反応して『ブッカキトン』と大声で鳴き始めたというのです。その噂を聞いた羽柴秀吉の名軍師・黒田官兵衛から数えて15代目の黒田家当主・黒田長禮博士(元日本鳥学会会頭)は、傘屋のコノハズクを籠ごと借り受け、自分の枕元に置き、4晩にわたって何度か「仏・法・僧」と鳴くことを確認したというのです。

中村氏の撃ち落とした鳥と黒田博士の実検結果が一致し、その数日後、開催された日本鳥学会の例会で、「仏・法・僧」と鳴く鳥はブッポウソウではなく、フクロウ科の『コノハズク』だということが報告されたのでした。



クマゲラの巣穴を乗っ取ったコノハズク

■ブッポウソウの呼び方

それではブッポウソウと呼んでいた鳥は今後、何と呼ぼうか?コノハズクを何と言おうか?と悩んだ末、朝日新聞記者渡辺紳一郎記者の発案で、そのややこしさを解消するため、全身青緑色で「ゲゲーゲゲー」と鳴く鳥を『姿のブッポウソウ』と、夜に「仏・法・僧」と鳴く鳥を『声のブッポウソウ』と呼ぼうということになりました。

これら一連の話やこの噂はたちまち、当時の銭湯や理髪店や涼み台までの話題をさらい、かくて1,300年来の神秘の鳥、深山幽谷の霊鳥は、一朝にして巷の鳥となったそうです。



クマゲラの巣穴を利用していたヤマコウモリ

■クマゲラの巣穴を利用する鳥獣

これまでのクマゲラ生態調査の結果、クマゲラの巣穴は、ブッポウソウをはじめ他の鳥獣や昆虫等に利用されています。

それでは、なぜよく利用されるのでしょうか?答えは、厳冬期や猛暑時における巣穴内部の気温にありました。厳冬期、枯れ木の内部が-13度であるのに対し、クマゲラが利用する生木内部は-5度と約8度の温度差があり、夏期は生木のほうが涼しかったのです。

これらを総合すると、クマゲラの巣穴は「冬暖かく、夏涼しい」いわば、冷暖房完備の天然のマンションにあたるのかも知れません。

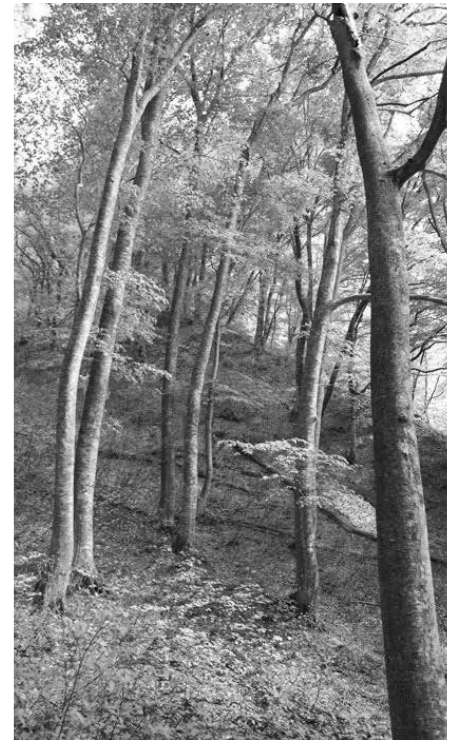
従って、クマゲラが生態系へ果たす役割は、意外に大きいことがわかります。しかし、このクマゲラも今や本州ではなかなかお目にかかれなくなっています。長年、クマゲラ調査を実施してきた筆者らも、実はこの数年、本州のブナの森に生息するクマゲラには出会えていないのです。

換言するならば、クマゲラの減少は、クマゲラのみならずクマゲラの巣穴に依存する多様な生物の棲みかを奪っているとも言えるのです。

■ブッポウソウ呼び込み作戦

クマゲラが少なくなってブッポウソウが利用できそうな巣穴が減少しているのならば、ブッポウソウ用の巣箱を設置したらどうだろう。筆者らは実際にブッポウソウ用巣箱をNTTの電柱に設置し、ブッポウソウ繁殖活動の助けをしている日本野鳥の会岡山県支部から、詳細な巣箱設計図を入手しました。手先が器用な会員でも大丈夫だろうと高をくくっていましたが、その設計図どおりに巣箱を造るには、ただの日曜大工程度では及ばないことが判明し、しぶしぶ知人に有料で造っていただきました。しかし、その効果はどのようなものか、今年1年試行してみて、今後の対策を練りたいと考え

ています。また、会員でも造れるように設計を簡略化することも視野に入れてい



本州のクマゲラが棲む見事なブナの森



ブナの森で生きるクマゲラ親子

■展覧会案内

企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」

会期：令和元年9月21日(土)～11月24日(日) 会場：特別展示室ほか

この展覧会は、武家の象徴として現代に伝えられる甲冑や刀剣、刀装具などを紹介するものです。本来実用的な側面を持つ武具や武器は、戦闘方法の変化や技術の進歩によって、様式が変化しました。また、実用的な側面とともに、武士の個性が反映され、工芸品としての側面も併せ持っています。ここでは、展示の内容から一部を紹介します。

1 かぶとの誕生

古墳時代から江戸時代に至るかぶとの移り変わりを紹介します。古墳時代前半は鉄板を革で繋ぎ合わせるのが主流でしたが、中期に入ると、鉄製の鋳が使用されるようになりました。平安時代には、鉄板を接合する鋳を突起状に加工した星兜が主流となりました。一方、南北朝時代以降に登場するのが、筋兜です。筋兜の筋は、鉄板を繋ぎ合わせた際に形作られました。時代が下るにつれて繋ぎ合わせる鉄板の枚数が増え、強度が増しました。図-1は、12枚の薄い鉄板を繋ぎ合わせて作られた、軽く簡素な作りの兜です。



図-1 鉄錆地十二枚張兜鉢 (岩手県立博物館蔵) 【岩手県指定有形文化財】 室町時代

戦国時代の槍隊や鉄砲隊が使用したと考えられます。兜は防具であると同時に、前面に付けられる「前立」などの装飾によって、武士としての意思が示されました。

2 よろいの移り変わり

よろいの様式は、戦闘方法の変化に応じて変化しました。大鎧(図-2)は、馬上で弓を持って戦う騎射戦に対応して、平安時代に成立したよろいです。胴は小札という、革や鉄製の小さな板を糸



図-2 白糸威裌取鎧 兜 大袖付(模造) (個人蔵) (原資料【国宝】柳引八幡宮蔵 南北朝時代)

で連結(威)して作られました。上腕部を守る大袖や、相手の放つ矢から胸を守るために柵板や鳩尾板を備えています。また、下腹部を守る草摺は、前後左右の4枚(四間)に分かれ、防御に適しています。南北朝時代から室町時代にかけて、戦闘方法の主流は騎射戦から徒歩中心の戦いに移ります。そこで下級の武士が着用していた簡素な武具が発展した胴丸や腹巻が登場します。草摺の枚数が8枚に増えて機動力が高まりました。胴丸が右脇で胴を引き合わせるのに対し、腹巻は背中引き合わせて着用しました。胴丸や腹巻は小札を糸で連結して作られたため、大量生産に向きませんでした。これに対し、大きな鉄製の板や蝶番を利用し、戦国時代の鉄砲による戦いに対応した、機能的で生産性の高い新しい様式が作られました。これは、佩楯や面頬など全身を防御する部品(具足)

を備えていることから、「当世具足」と呼ばれました。戦国時代から江戸時代にかけてよろいの中心的なスタイルとなり、二枚胴や五枚胴、最上胴などのバリエーションが登場しました。桃山時代には、当世具足の一つとして、ヨーロッパ伝来の胴をアレンジした南蛮胴が登場します。

3 盛岡藩のよろい

ここでは、江戸時代中期の盛岡藩主所用のよろいを紹介します。

南部利正(1751-1784)が元服の際に着用したと伝えられる卯花威紅羅紗地唐獅子牡丹文二枚胴具足(図-3)は、胴が紅色の羅紗地で包まれ、正面に唐獅子、背面に牡丹の刺繍が施されています。草摺にも牡丹の刺繍が見られます。兜の内部には「天文」の文字が刻まれていることから、古い兜を利用したことが分かります。南部利正は、家督を継いで3年後に、33歳の短い生涯を終えました。



図-3 卯花威紅羅紗地唐獅子牡丹文二枚胴具足 (岩手県立博物館蔵) 【岩手県指定有形文化財】 江戸時代

4 武将が愛した甲冑

戦国時代後半から江戸時代にかけての武将たちのよろいを紹介します。

秋田の佐竹義重、米沢の上杉景勝、仙台の伊達政宗所用のよろいを通じ、戦国武将としてのそれぞれの生き方を浮き彫りにします。米沢を支配した上杉景勝(1556-1623)の具足(図-4)は、徳川家康が関原の戦いに先立って景勝の征討に赴いた際に、景勝が着用していたと伝えられるものです。兜は62枚の細長い板を繋ぎあわせて作られています。前面に立てられている前立は阿吡の瑞鳥です。



図-4 浅葱糸威黒羅紗韋板物二枚胴具足 (公益財団法人宮坂考古館蔵) 【山形県指定有形文化財】 室町時代

5 古文書にみるよろい・かぶと

江戸時代の甲冑や刀剣の情報はどうのようか。古文書に記録されていたのでしょうか。盛岡藩が所蔵した武具や刀剣のうち、盛岡城の「御蔵」で保管されたものは台帳に記載され、厳重に管理されました。文化13年(1830)に作成された『御宝蔵御具足帳』には、南部重信所

用の「金小札茶糸御具足」(金小札茶糸緞二枚胴具足)を筆頭に、南部利幹所用「小札紫糸威御具足」(銀本小札紫糸威二枚胴具足)などが記載されています。なお、具足の一覧には所在確認を行った際の確認印として、干支の印が捺されています。鎧兜は、正月の行事の際に展示が行われました。安政3年(1856)『御具足櫃開閉立合帳』(図-5)には、正月十三日に「御具足御飾」が行



図-5 御具足櫃開閉立合帳 (もりおか歴史文化館蔵) 安政3年(1856)

われ、翌日に「仕舞」されたことが記されています。また、七月二十三日には、「御具足虫干」が行われたことが記載されています。所蔵するよろいやかぶとの管理に気を配っていたことがうかがわれる記述です。

6 異形の美～「変わり兜」の世界～

兜は、頭部を守る武具として進化を遂げてきました。一方、桃山時代以降大規模な戦闘が減少すると、鉄の兜の上に和



図-6 黒漆塗執金剛杵形兜鉢 (靖國神社遊就館蔵) 江戸時代

紙や革などで様々な形を作る「張懸」という技法によって、個性的な「変わり兜」が盛んに作られました。変わり兜には、戦場に赴く武士の決意が反映されており、仏教に関わるデザインが施されている兜も散見されます。黒漆塗執金剛杵形兜鉢(図-6)は、金剛杵という仏具を手握った形が表現されています。表面には黒漆が塗られ、「盾庇」には眉やしわが表現されています。金剛杵はインド神話に武器として登場し、密教では煩惱を破壊して悟りを開くために用いられます。

7 刀工の業&刀装具の世界

ここでは、重要文化財「太刀銘助真」(図-7)を中心とする日本刀と、鞘や鐺などの拵を紹介し、助真は、鎌倉時代中期(13世紀後半)に活躍した備前国(現在の岡山県)福岡一文字派の刀工です。幕府の招きで鎌倉に下向し、鎌倉一文字派を興したと伝えられます。反りが深く、切先に向かうにつれて細くなっていく優美な姿で、刃文は丁字乱れと互の目乱れが入り混じり、独特の美しさを創り出しています。



図-7 太刀銘 助真 (岩手県立博物館蔵) 【重要文化財】 鎌倉時代中期

一方、拵のうち雉子尾雌雄御太刀は、室町時代に南部義政が将軍足利義教から拝領したものと伝えられます。この拵は、太刀の持ち手部分である柄の先端部分「柄頭」が雌雄の雉子の形に作られており、二口で一組でとなります。雄は赤銅で作られ、雌は金で作られています。

きっと、個性的な「よろい・かぶと・かたな」と出会えるはず。ぜひお越しください。

(専門学芸調査員 原田 祐参)

■事業報告

ゴールデンウィークスペシャルイベント

開催日：平成31年4月29日(月・祝)「動物ふれあいコーナー」、令和元年5月4日(土・祝)～5日(日・祝)「ミニSLにのろう!」「Nゲージ鉄道模型展示&走行」

今年のゴールデンウィークも、博物館はたくさんのお客様で賑わいました。連休期間、博物館をより楽しんでいただこうと、2年前からスペシャルイベントを開催しています。今年は3本のメニューをご用意しました。

【動物ふれあいコーナー】

良い天気恵まれたこの日、芝生広場に動物が大集合！かわいい小動物や珍しい爬虫類、ミニポニーなど、たくさん



りずさん、こんにちは。

の動物に皆興味津々。蛇を首に巻いて記念写真を撮る方、ひよこをそっと抱き上げる子、ずっとリスを見つめる子…。思い思いに動物とふれあっていました。

【ミニSLにのろう!】



ガタンゴトン、楽しいね!

毎年人気のイベントです。初日は、ミニSLが動かない!というトラブルが発生したものの、「SLがんばれー!」という子どもたちの声援が届き、無事にSL復活!2日間、青空の下で、たくさ

んのお客様を乗せて走りました。

【Nゲージ鉄道模型展示&走行】

こちらも恒例となったイベントです。「ずっと見ていても飽きない!」というお客様の声のとおり、細部までこだわりぬかれたジオラマ、そこを走る模型などが、来館者の目を楽しませてくれました。



こだわりいっぱいの空間

お越しくくださった皆様、ありがとうございました!

(主事 小野寺 聡美)

■事業報告

県博バックヤードツアー(2019年度「国際博物館の日」関連事業)

開催日：令和元年5月18日(土)

「国際博物館の日(5月18日)」は、1977年にICOM(International Council of Museums;国際博物館会議)によって制定された記念日で、博物館が果たす役割を広く普及・啓発することを目的としています。

当館では5月18日を無料開館日とし、3コースからなるツアーを開催しました。バックヤードは、資料保護の観点から厳密な温湿度管理や防犯体制が必要となるため、一般の方の立ち入りを禁止していますが、この日に限り、収蔵庫等の設備を見学いただく機会を設けています。

文化財レスキューコースは、被災文化財が、どのような経緯を経て修復処理されるのかを学びます。資料の殺虫・消毒処理と、被災した紙製品の修復工程を見

学後、海水に浸かった紙資料の塩分を抜く脱塩処理と和紙の補修作業を体験いただきました。参加者は細心の注意を払う作業に大変驚かれた様子でした。

自然コースは生物と地質の収蔵庫を見学しました。毎回動植物のはく製や標本、恐竜化石や貴重な岩石標本などが大人気ですが、学芸員のわかりやすい解説に、参加者からは「もっと見たい!知り



自然コースの様子

たい!」の声が寄せられ、今年もワクワク感たっぷりのコースとなりました。

歴史コースは考古、民俗、歴史部門の3つの収蔵庫を周り、発掘資料、歴史的価値の高い資料や暮らしに密接に関わる民俗資料をご覧いただきました。考古の収蔵庫では遺跡から出土した土器や石器、民俗の収蔵庫では昭和の洗濯機、蠅とり器、計算機、歴史の収蔵庫では日本刀と絵図をご覧いただきました。中でも戦前に描かれた4mを越える「岩手県観光鳥観図原図」の大きさと緻密さに目を奪われている様子でした。

当館では、来年度以降もこうした活動を継続したいと考えています。どうぞご期待ください。

(専門学芸員 米田 寛)

■活動レポート

トピック展「青い鳥」

毎年5月10日～16日は愛鳥週間です。私が尊敬する日本野鳥の会の創始者・中西悟堂氏が、昭和9年に当時の文化人たちに声をかけて、日本初の探鳥会を始めたのが愛鳥思想普及の初まりです。その探鳥会には、柳田国男や北原白秋、そして金田一京助など各界から40名以上も参加しています。また昭和40年5月12日には、イヌワシとクマゲラが国の天然記念物に指定された記念すべき日で、愛鳥週間の中に位置づけられています。

今回は『幸福を呼ぶ青い鳥』というのがコンセプトで、オオルリ・コルリ・カワセミ・サンコウチョウ・カケス・ブッポウソウ・ヤイロチョウをとり上げました。ヤイロチョウ以外、岩手県に生息している鳥たちですが、鳥に関心のない方

にも興味深く見ていただくために、収蔵庫の奥深くから厳選し、展示しました。

オオルリは日本三鳴鳥のひとつ、コルリはさえずりの前に必ず前奏があります。サンコウチョウは長い尾羽とコバルトブルーのアイリングが特徴で、カケスは物まね上手、ブッポウソウは「仏法僧」と書き表され、仏教を布教する観点から、聖徳太子や弘法大師が大事にした鳥です。

そして最後はヤイロチョウですが、和名のごとく、羽毛が8色から構成されていて、とてもきれいです。鳥の羽毛をみていつも思うことは、自然が創り出す色彩は、人工では絶対に真似のできない素晴らしい色あいをしていることです。

先日、滝沢市にある森林公園に家族を連れてミニ探鳥会をしてきましたが、アカゲ

ラやアオゲラが飛び交い、オオルリ・キビタキ・センダイムシクイ、そしてイカルが盛んにさえずっていました。今年はどのような鳥が活躍するのか楽しみです。

トピック展は本来、タイムリーで話題性のある小規模展示をさしますが、当館では年4回の定期展覧会の合間に、県民の皆さんに喜んでいただけるような展示を心がけ、年間30回以上のトピック展や展示替えを行っています。



カワセミ

サンコウチョウ

(上席専門学芸員 藤井 忠志)

■活動レポート

古文書入門講座

当館では毎年、古文書を初めて勉強してみたいという方のための「古文書入門講座」を開講しています。今年度は6月第2週目～第4週目の土日、全6回の講座を実施し、13名の方にご参加いただきました。

講座において使用したテキストは、江戸時代の寺小屋の教科書である『子供早学問』および旅行記としての読物『平泉往来』です。漢字や仮名などの基本的な語句のくずし字を確認するとともに、近世の倫理観や地名、登場する歴史上の出来事や人物についての説明も盛り込みました。講座の主要目的は古文書の基礎的な読解力を身につけることですが、その古文書が書かれた時代背景や思想背景を知ることも大切なことだと考えております。

講座の中では、見慣れないくずし文字や語句、文章を、一行ずつ丁寧に読み進めるよう心掛けました。最初は、ミミズの這ったようなくずし字を解読するのに困惑していた受講者の方々が、講座の回を重ねるごとに、過去に見たことがある文字が繰り返し使われていることに気付き、自力で読める箇所が少しずつ増えていくのを実感する様子が見られました。

受講された方からは「変体仮名が分かってくると読めるものの幅が広がってきておもしろい」、「近世の倫理や地名なども学べてとても勉強になった」、「6回だと足りない。もっと古文書を勉強したいので回数を増やしてほしい」などの感想とともに、講座への高い評価をいただき、担当者として大変嬉しく思っており

ます。

古文書講座を実施することの意義は、古文書を学ぶことのおもしろさを知っていただくとともに、ご自宅の引き出しから先祖の残した文書を見つけた時や、博物館などの施設で資料をご覧になる際に、それがどういった内容のものなのか興味をもっていただくその糸口になれることです。



使用テキスト「子供早学問」

(専門学芸員調査員 武田 麻紀子)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション 〈令和元年9月1日～令和元年12月31日〉

■お知らせ

●資料整理に伴う休館

令和元年9月1日(日)～令和元年9月10日(火)は資料整理のため休館します。

●敬老の日 65歳以上入館無料

令和元年9月16日(月・敬老の日)は、65歳以上の方は無料で入館できます。

●文化の日 入館無料

令和元年11月3日(日・文化の日)は無料で入館できます。

■展覧会

●企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」

令和元年9月21日(土)～11月24日(日) 会場：2階・特別展示室ほか
武家の力を示すものとして現代に伝えられる甲冑、刀剣、刀装具などを紹介します。

※詳細は本文p.4-5展覧会案内記事をご覧ください。

◆展示解説会 会場：2階・特別展示室ほか 当日受付 要入館料

各回とも14：30～15：30

①9月23日(月・祝) ②10月20日(日) ③11月17日(日)

◆子ども向け展示解説会「よろい・かぶと・かたなのひみつ教えます!!」

会場：2階・特別展示室 当日受付 大人は要入館料

各回とも11：00～11：30

①10月5日(土) ②11月10日(日)

◆子ども向け甲冑着用体験「よろい・かぶとを身につけよう!!」

会場：特別展示室 当日受付(3歳以上幼児～小学生対象)大人は要入館料

各回とも10：30～11：30、14：45～16：00

①9月29日(日) ②10月19日(土) ③11月16日(土)

◆子ども向けワークショップ「鯨尾兜(なますおのかぶと)をつくらう!!」

会場：教室 参加費無料 要事前申込(3歳以上幼児～小学生対象)

各回とも13：00～14：00 各回定員20名

①9月28日(土) ②10月26日(土) ③11月9日(土)

※詳細はHP、チラシをご覧ください。

◆日曜講座 会場：地階・講堂 聴講無料 各回とも13：30～15：00

9月22日、10月6日 ※県博日曜講座の欄をご覧ください。

■文化講演会

11月3日(日・文化の日) 地階・講堂 入館無料 13：30～15：00

演題：「刀工の業～助真を中心に～」(展覧会関連講座)

講師：渡邊妙子氏(公益財団法人 佐野美術館 理事長)

■県博日曜講座

第2・第4日曜日 13：30～15：00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

* 9月22日「大名と甲冑～盛岡藩を中心に～」 講師：原田祐参(当館学芸員)

* 10月6日「戦国武将と変わり兜」 講師：須藤茂樹氏(四国大学教授)

10月27日「岩手の往来～夕顔瀬橋～」 講師：園田貴弘(当館学芸員)

11月10日「早池峰山の植物と二ホンジカ」 講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

11月24日「こけしの魅力～秋田木地山こけしを中心に～」

講師：米田 寛(当館学芸員)

12月8日「クマガラ・サンコチョウ・岩手のライチョウ」 講師：藤井忠志(当館学芸員)

1月12日「いわての操り人形(仮)」 講師：木戸口俊子(当館学芸課長)

1月26日「ダムのお仕事(仮)」 講師：山岸千人(当館学芸員)

2月9日「岩手のトンボ」 講師：渡辺修二(当館学芸員)

2月23日「陸前高田のれきし散歩」 講師：菅野誠吾(当館学芸員)

3月8日「雑学ノススメ」 講師：高橋廣至(当館館長)

* 3月28日(土)「化石の博物館」 講師：宮田真也氏

(城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員)

■観察会・見学会(事前申込制)

◆第78回地質観察会「熱帯の海の生物たち(陸前高田市)」

令和元年11月3日(日・祝) 10：00～15：30

於、陸前高田市 現地集合・解散

陸前高田市がかつて熱帯の海だった様子を地層や化石をとおして観察します。

講師：永広昌之氏(東北大学総合学術博物館協力研究員)

定員：20名(小学校高学年以上、要保護者承諾)

参加費：100円(障害保険料)

募集期間：10月10日(木)～10月19日(土) 定員充足しだい締切

◆第78回自然観察会「早池峰山麓の自然観察」

令和元年10月5日(土) 9：00～17：00

早池峰山の自然を楽しみながら、二ホンジカの影響について学びます。

講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

定員：24名(小学生以上)※要事前申し込み。定員充足しだい締切。

参加費：3,000円程度(バス代)※小学生は半額

募集期間：9月11日(水)～9月27日(金)

※地質観察会・自然観察会は申し込み専用電子メールまたは往復ハガキで先着順に受け付けます。詳しくはお問い合わせ下さい。

◆考古学セミナー

令和元年10月26日(土) 葛巻町平庭鉄山跡見学会

※詳細は、HPをご覧ください。

■博物館まつり

第11回岩手県立博物館まつり 令和元年10月13日(日)9：00(開門)～16：00

体験コーナー整理券配布 午前の部9：10～、午後の部12：45～

各体験コーナーは9：30開始

いろいろな体験コーナーが皆さんをお待ちしています!

■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング

令和元年10月27日(日)9：30～15：00 芝生広場 無料

岩手県内の貴重な車が一堂に会します。

■週末の催し

◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします。

毎月第1土曜日 13：30～15：00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○10月5日 「愛と情熱のかざり『二宮金次郎者物語』(実写/115分/一般向け)

○11月2日 「失われた心を取りもどす『アンダンテ～稲妻の旋律～』

(実写/107分/一般向け)

○12月7日 クリスマスアニメ特集(アニメ/計92分/幼児～小学生向け)

「すてきなコンサート クマのおいしゃさん」、「クリスマスのおくりもの」

「神様がくれたクリスマスツリー」ほか

◆チャレンジはくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

9月14日・15日・16日・21日・22日・23日 テーマ：旅

10月12日・13日・14日・19日・20日 テーマ：びかびか

11月9日・10日・16日・17日 テーマ：食

12月14日・15日・21日・22日 テーマ：顔

チャレンジマークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13：00～14：30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館

時間(9：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に

3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

※9月15日「3Dメガネで万華鏡」の予約受付は8月25・27～31日および9

月11～15日に行います。

9月	1日 (おやすみ)	10月	6日 カラフルクモづくり
	8日 (おやすみ)		13日 (はくぶつかんまつり)
	15日 3Dメガネで万華鏡※		20日 葉っぱのカラフルカード
	22日 まが玉アクセサリー		27日 化石のレプリカ
	29日 手づくり万華鏡		
11月	3日 砂絵	12月	1日 松ぼっくりのXmasツリー
	10日 ペーパーかぶと		8日 まゆで干支づくり(子)
	17日 スライムであそぼう		15日 かんたん門松
	24日 松ぼっくりのXmasツリー		22日 まゆで干支づくり(子)
			29日 (お休み)

■ミュージアムコンサート

12月21日(土)13：30～14：15 地階・講堂 当日受付 鑑賞無料

親子で楽しめるクリスマスコンサート!

■定時解説

平日～土曜日 13：30～14：30/日曜日 10：30～11：30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様

のご質問や解説のご要望におこたえしています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

■令和元年度の利用案内

■開館時間 9：30～16：30(入館は16：00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

※9月16日(月・敬老の日)、9月23日(月・振替休日)、

10月14日(月・体育の日)は臨時開館

資料整理日(9月1日～9月10日)

年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※9月16日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

※11月3日(日・文化の日)は無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその

付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより	編集 岩手県立博物館
第162号	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
令和元年9月1日発行	Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214
	発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団
	〒020-0023 盛岡市内丸13-1
	Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595